|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **実習施設名** |  | **施設種別****180時間実習プログラミングシート** |  | **作成日****日本福祉大学 社会福祉学部** |  |
| **実習プログラム作成メンバー** |  |
|  |
| **学生に求める事前学習** |
|  |
|  |
| **学びの流れ** | **教育に含むべき事項（国通知）** | **本学部の達成目標****（評価項目）** | **実習内容　/　実習方法　/　担当者** | **指導上の留意点、教材** |
| **実習施設を知る****（職場理解/職種理解）** | 1. 利用者やその関

係者（家族・親族・友人等）、　施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや円滑な人関係の形成 | Ⅰ-②利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等とコミュニケーションをとり円滑な人間関係を形成することができる。 |  |  |
| ⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） | Ⅱ-①施設・機関のあゆみと理念、サービスの管理運営（チームマネジメントや人材管理）の仕組みを説明できる |  |  |
|  | ⑤多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 | Ⅱ-②施設・機関内/外における職種間連携及びチームアプローチについて説明できる。 |  |  |
| **利用者Ａさんの生活課題を知る****（個別支援計画）** | 1. 利用者やその関係

者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成 | Ⅲ-①援助関係の構築を意識して Aさんと関わることができる |  |  |
| ③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価 | Ⅲ-②Aさんと環境との関係性に着目して、必要な情報収集をすることができる。Ⅲ-③ストレングス視点に基づいてAさんをアセスメントできる。Ⅲ-④Aさんのニーズを把握することができる。Ⅲ-⑤Aさんの支援に活用できる社会制度・施策や地域の資源について説明することができる。Ⅲ-⑥Aさん中心の支援計画を、根拠に基づいて立案することができる。Ⅲ-⑦モニタリング・評価の意義と方法を説明することができる。 |  |  |
| 1. 利用者やその関係

者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価　※ケースアドボカシー　 |  |  |  |
| **Aさんと同様の暮らしづらさを抱える地域の人々の生活課題を知る** | 1. ´利用者や地域の

状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価 | Ⅳ-①Aさんと同様の生活課題を抱える人々の視点に立って地域の状況をアセスメントできる。Ⅳ-②Aさんと同様の生活課題を抱える地域の人々の生活課題（ニーズ）を説明できる。 |  |  |
| **地域における実習施設・機関の役割を知る** | 1. ´Aさんと同様の

生活上の課題を抱える地域の人々への権利擁護活動とその評価 | Ⅴ-②Aさんと同様の生活課題を抱える人々が暮らす地域社会への具体的な働きかけについて説明できる |  |  |
| ⑥実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ | Ⅴ-①実習先法人/施設・機関が地域社会の中で果たす役割を説明できる |  |  |
| ⑦地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 | Ⅴ-③地域づくりを推進するための分野横断的・業種横断的な関係形成の現状と課題について説明できる。Ⅴ-④地域づくりに向けた必要な取り組み、資源について提案ができる |  |  |
| ⑨社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 | Ⅵ-①社会福祉士倫理綱領をふまえ社会福祉士の役割を説明できる。Ⅵ-②施設・機関の利用者やその関係者、地域の人々への権利擁護の取り組み例を説明できる |  |  |
| ⑩ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解：アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、　　　ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション　 | Ⅵ-③実習中に経験したアウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションの取り組み例を説明できる。Ⅵ-④実習を通して「包括的支援の取り組み」について学んだことをプレゼンテーションできる。 |  |  |